

aFGF による神経難病治療

■ キーワード

アルツハイマー病、パーキンソン病、ALS、MR画像、画像診断、細胞追跡

■ 概要

神経難病の遺伝子治療・細胞治療



とおやま いくお
遠山 育夫 教授

分子神経科学研究センター

・神経遺伝子解析分野

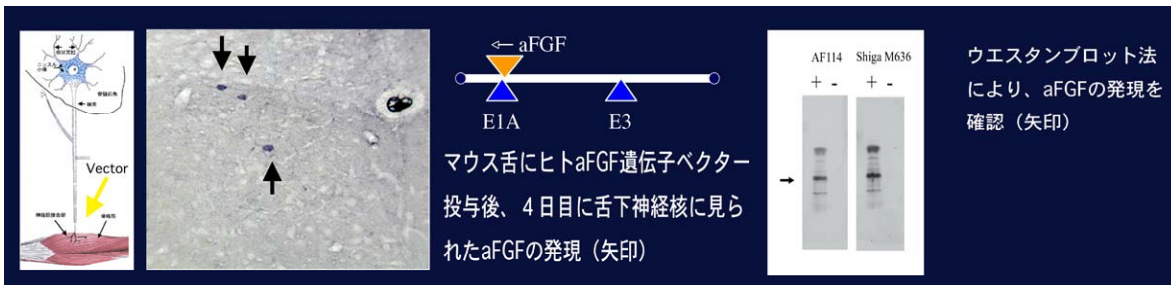
主な経歴: 医学博士(京都大学)

所属学会: 日本神経学会(専門医)、日本内科学会(認定医)、日本脳科学会(理事)、日本解剖学会(評議員)、日本組織細胞化学会(評議員)、米国神経科学会など

■ 内容

aFGF による神経難病治療

神経栄養因子 aFGF は、アセチルコリン作動性神経に多く共存し、強力な神経保護作用をもつ。アセチルコリン神経は、学習・記憶などの高次脳機能や運動神経・自律神経機能など重要な役割を果たしており、アルツハイマー病や ALS などの神経難病で、強く障害される。我々は、aFGF やその誘導体や関連物質を利用したアルツハイマー病や ALS の治療法の開発を目指している。



分野・業種	バイオ・ライフサイエンス・医薬
シーズにかかわり	・神経疾患(アルツハイマー病、パーキンソン病など)のMR診断法の開発
希望する研究課題	・神経栄養因子(aFGF)を用いた神経疾患の遺伝子治療・細胞治療法の開発
コメント・メッセージ	高齢化社会を迎え、神経疾患の患者さんの数は急速に増加しています。解決へ向けた産学官の共同研究を希望します。
特許出願状況	特許出願 2003-199628、特許出願 2003-282022、特許出願 2003-311037